

1.7.1 試験体の構造

現状におけるアンカー形式には引張型、圧縮型、支圧型、くさび型があり、基本調査試験時の試験体構造は、計画されている工法に沿ったものでなければならない。

特に引張型と圧縮型では、定着長の算出式が同じであることから、同一仕様でなされるのが一般的であるが、次図に示すように、アンカー体の応力状態が異なることから、当然ながら区別すべきである。

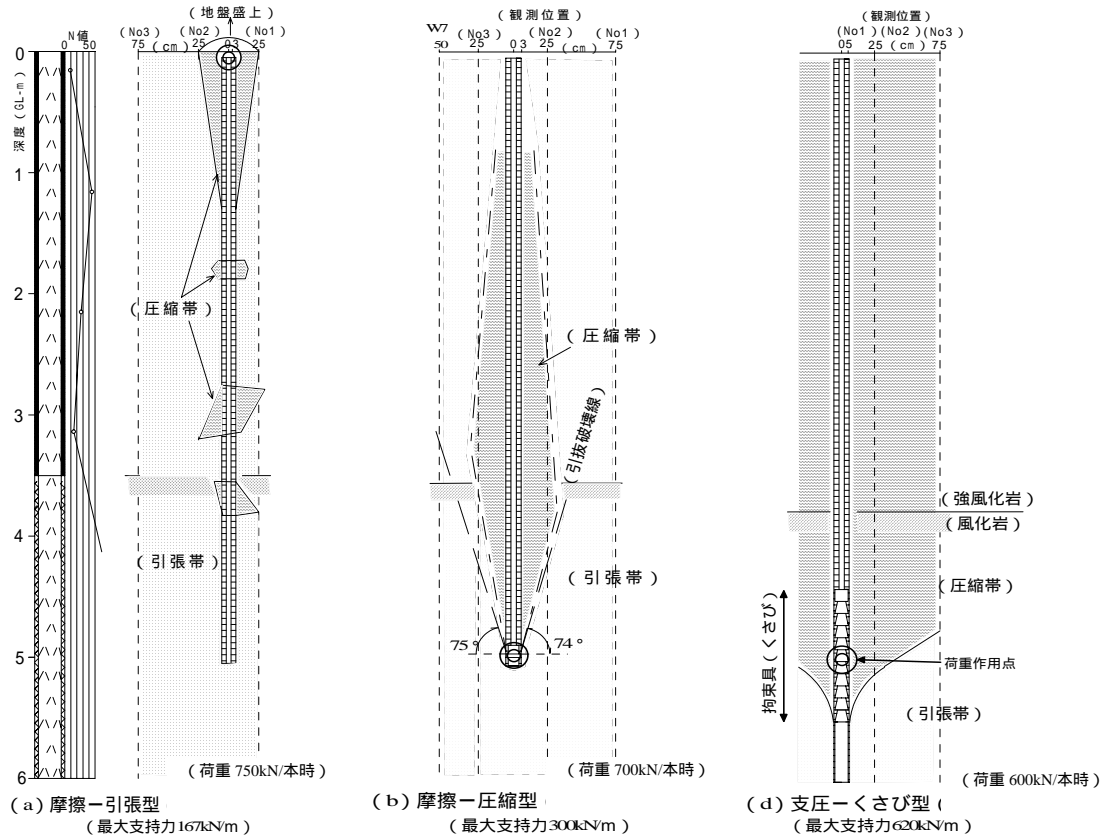


図 7.1.1 摩擦（引張）型

図 7.1.2 摩擦（先端圧縮）型

図 7.1.3 くさび型

あるいは、基本調査試験では定着長を 1~2m と短くすることから、PC 鋼より線を用いる場合、これとグラウト材の剥離を防止するため、先端部に固定金具を取り付けるケースがあるが、この場合は、厳密に言えば圧縮型アンカーに近似した仕様となることを考慮する必要がある。

